

WINDS CAFE 302

ジョン・ケージ 『Sixty-Two Mesostics Re Merce Cunningham』 全曲演奏

2022年2月20日 カーサ・モーツァルト

演奏：松平 敬（声）

演奏曲目：

ジョン・ケージ：マース・カニングハムによる62のメソスティック(1971)
～マイクを用いた無伴奏の声のために

John Cage: Sixty-Two Mesostics Re Merce Cunningham
for voice uaccompanied using microphone

(演奏予定時間93分)

メソスティック mesostic

キーワードとなる言葉が、詩の中央に縦に現れるようにレイアウトされた詩の形式。類似した形式のアクロスティック acrostic では、キーワードが各行冒頭に縦に現れる。ケージのアシスタントであったアンドリュー・カルヴァーによると、メソスティック作成にあたり、ケージは作品によって2種類のルールを使い分けた。

50%のメソスティック：キーワード内の隣り合った二つの文字の間には、後の方の文字が現れない。

100%のメソスティック：キーワード内の隣り合った二つの文字の間には、どちらの文字も現れない。

『マース・カニングハムによる62のメソスティック』は50%のメソスティックで作られている。

スコア¹前書きより

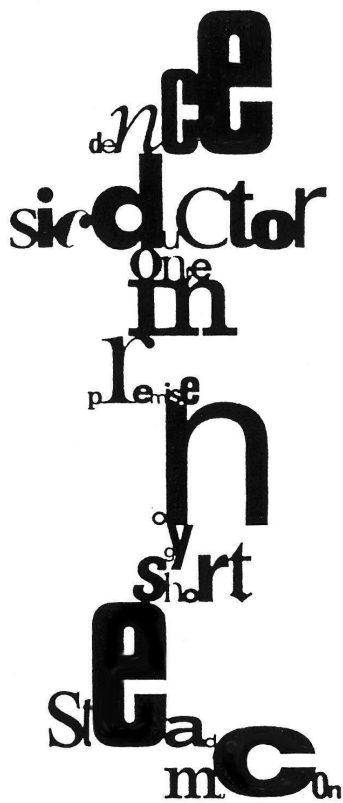
[...]それぞれの演奏においては、少なくとも5つのメソスティックを含めなくてはならない。[...]一つのメソスティックとそれに続く沈黙を合計した時間は、少なくとも1分30秒とすること。

テキストは『易経』によって決められたシラブルと単語のミックスである。それらは、マース・カニングハムの著書『Changes: Notes on Chreography』と、彼の蔵書から彼自身によって選ばれた32の本から採られている。テキストには、約730の様々なサイズの書体が使用されている。これらのフォントやサイズの違いは、即興的に演奏される声楽パート

における強度、音色、演奏スタイルなどの変化を示唆するものとして利用してよいが、いかなる伝統的なルールにも従ってはならない。単語やシラブルが明確になってはならない。むしろ、それぞれの文字に注意が向けられるべきである（しかしながら、各文字とそれに続く文字を分けてはならない。それぞれの文字は様々な方法で発声されうるだろう。固定された発音のルールを決めようとしてはならない）。

テンポは任意である。しかし（それぞれのメソスティックが単一の視覚イベントとしての文字の複合体であるように [...]）各メソスティックはひと固まりのものとして演奏されなくてはならない：あたかも、一つの鳴き声、叫び声、声楽的イベントのようであるべきで、息継ぎ以上に長い沈黙を含んではならない [...]。

「文法なしに話せば、私たちは [...] その独特の抑揚が優位になることに気が付く。[...] 言語の熱量を上げるために、私たちは文法を取り除いただけではない：それぞれの文字に独自のフォントとサイズを設定しながらも、それぞれがバラバラなものと思われられないような配慮を施した。『読む』は『歌う』という動詞になる。」



¹ John Cage, *SIXTY-TWO MESOSTICS RE MERCY CUNNINGHAM*. Edition Peters 1971

『M』²前書きより

[...] 突然私は、各文字を垂直および水平に触れ合うようにすれば、[メソスティックの] 中央に縦書きされる[カニングハムの] 名前の長さが、不都合なものではなく有用なものとなるのではないかと思いついた。詩は[縦書きされたカニングハムの名による] 背骨を持つことで、ダンサーであるカニングハム自身のようになるはずだった。実際はそうにならなかったが…(これらのメソスティックはむしろ、滝や[漢字などの] 表意文字に似ている)[...]。どの行も、一つの単語またはシラブルのみを含む。[...] これらの言葉のいくつかでは、2つ以上のシラブルを入れ替える変形がなされている。このプロセスは、どの辞書にも載っていない新しい言葉を作り出したが、ジェイムズ・ジョイスの『フィネガンズ・ウェイク』の至る所に現れる単語とどこことなく似ている。



訳：松平敬

[]内は訳者による補足

松平 敬 (まつだいら・たかし) プロフィール

愛媛県宇和島市に生まれる。東京芸術大学卒業、同大学院修了。現代声楽曲のスペシャリストとして、湯浅譲二、松平頼暁、高橋悠治、池辺晋一郎、西村朗、近藤譲、三輪眞弘など150曲以上の作品を初演する。これまでサントリーホールサマーフェスティバル、コンポージアム（東京オペラシティ財団）、国立劇場、新国立劇場などに出演。CD録音においても、一人の声の多重録音を駆使した『MONO=POLI』（平成22年度文化庁芸術祭レコード部門優秀賞）及び『うたかた』、『エクステンデッド・ヴォイセス』と、個性的なアルバムを発表。チューバの橋本晋哉氏とのユニット「低音デュオ」名義でも2枚のCDをリリース。2019年には、シュトックハウゼンのほぼ全作品を網羅した著書『シュトックハウゼンのすべて』を出版（第32回ミュージックペンクラブ音楽賞）。第19回佐治敬三賞受賞。現在、聖徳大学、文教大学、東京大学講師。

ウェブサイト：<https://matsudaira-takashi.jp>



² John Cage, *M writings* '67 - '72. Marion Boyars 1998